

地区別不便度の分類の流れ

参考資料1

1 対策地区の選定の考え方

- 1) 対策地区は、以下の2つの項目から選定する。
 - ① 目的地までの距離
 - ② 区民アンケートにおける不便感
- 2) 30地区ごとに目的別の不便度を分類(A~D)する。

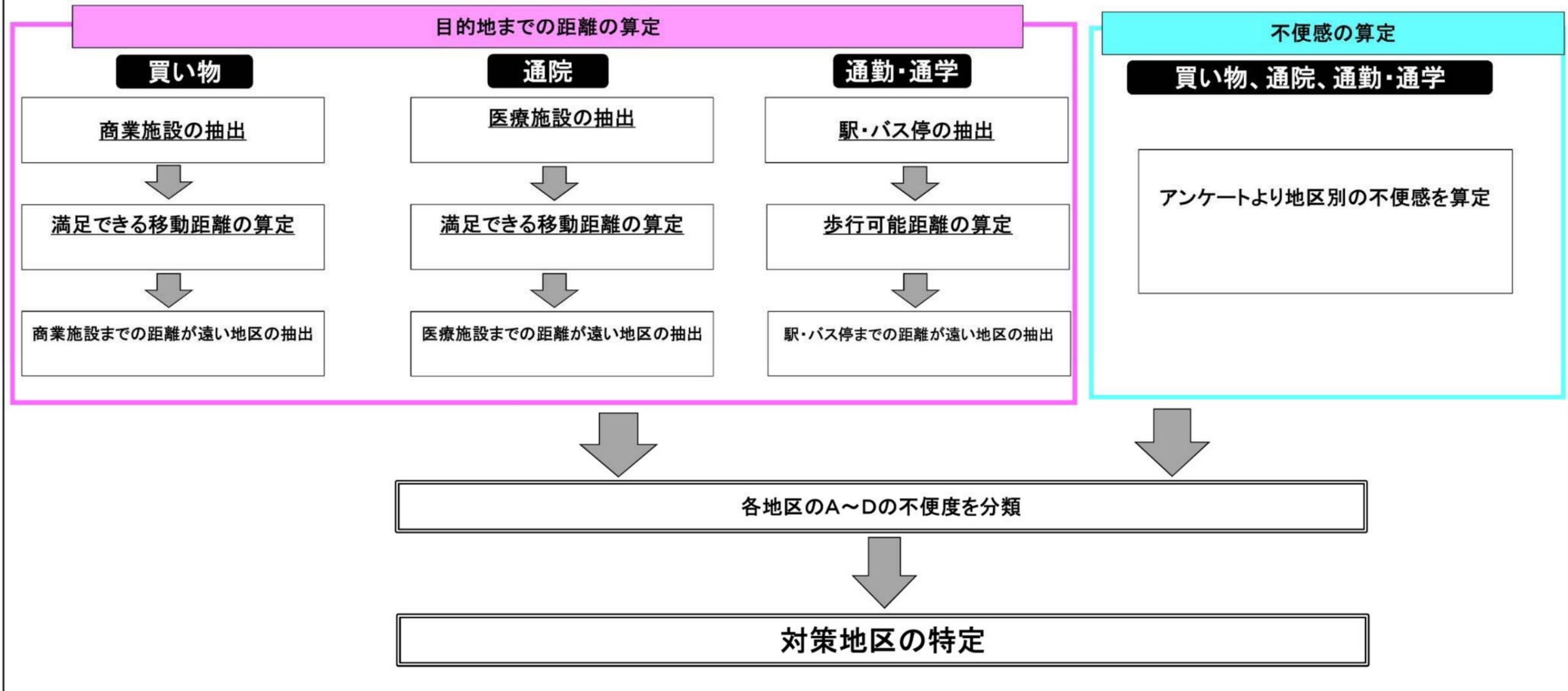
		区民アンケートにおける不便感	
		低い	高い
目的地までの距離	大	C	A
	小	D	B

[分類A]
最優先に交通サービスの向上が必要な地区

[分類B、C]
交通サービスの向上が必要な地区

[分類D]
全体の底上げの視点で取り組む地区

2 対策地区の選定フロー

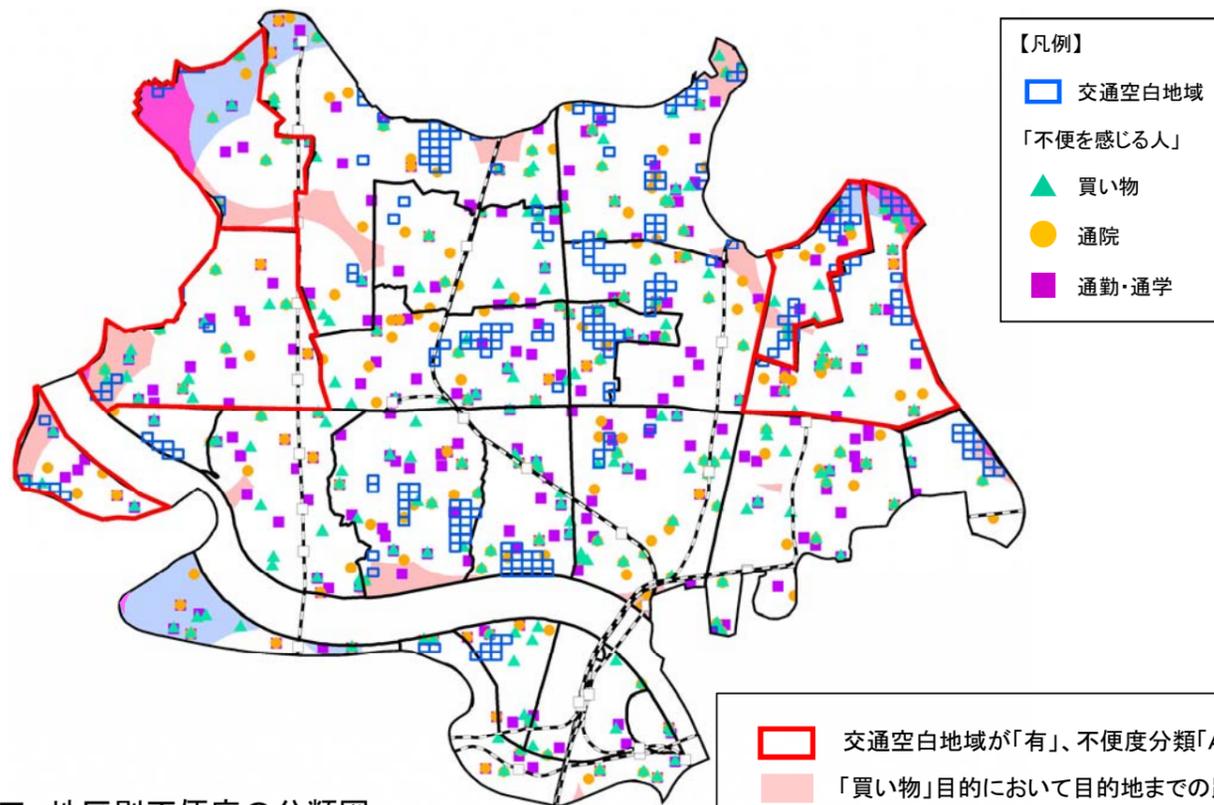


地区別不便度の分類(全目的)

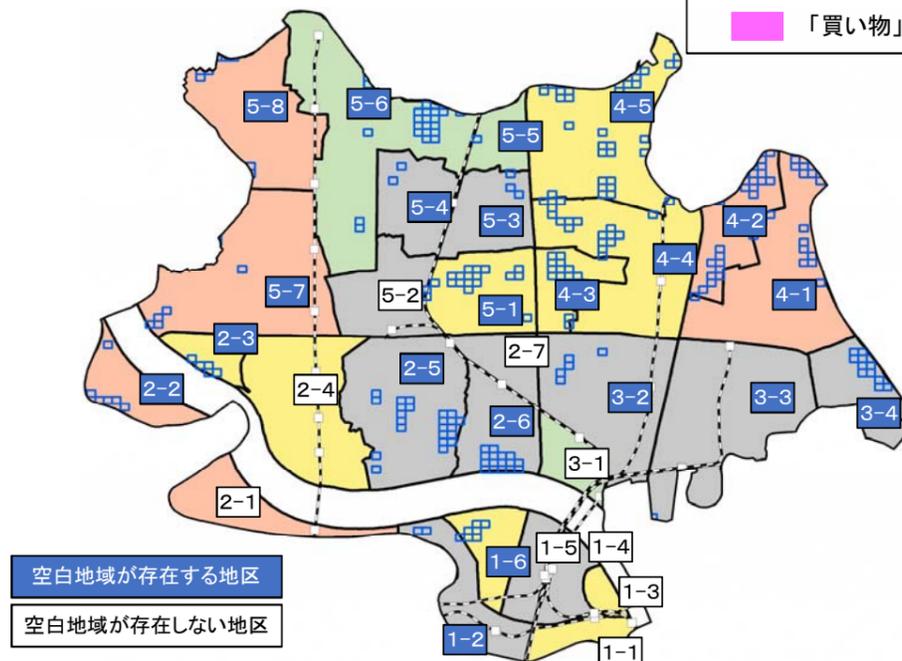
参考資料1

全目的

■ 目的地までの距離が遠い地区・目的別「不便を感じる」人の分布図



■ 地区別不便度の分類図



		①不便感	
		低	高
②目的地までの距離	大	C	A
	小	D	B

■ 30地区別の不便度の分類(A~D) Aの方が不便度が高い

空白地域	地区名	不便感	目的地までの距離が遠い地区	分類
有	1-2	20/133 (15%)	非該当 ()	D
有	1-6	19/83 (23%)	非該当 ()	B
有	2-2	22/112 (20%)	該当 (22.3%)	A
有	2-3	3/9 (33%)	非該当 ()	B
有	2-5	45/280 (16%)	該当 (9.9%)	D
有	2-6	23/154 (15%)	該当 (0.7%)	D
有	3-2	43/313 (14%)	該当 (1.2%)	D
有	3-3	53/341 (16%)	該当 (0.4%)	D
有	3-4	7/80 (9%)	該当 (9.7%)	D
有	4-1	52/204 (25%)	該当 (14.9%)	A
有	4-2	21/102 (21%)	該当 (16.2%)	A
有	4-3	26/87 (30%)	非該当 ()	B
有	4-4	33/180 (18%)	該当 (6.4%)	B
有	4-5	50/174 (29%)	該当 (8.6%)	B
有	5-1	28/153 (18%)	非該当 ()	B
有	5-3	23/138 (17%)	非該当 ()	D
有	5-4	12/100 (12%)	該当 (2.6%)	D
有	5-5	11/65 (17%)	該当 (12.4%)	C
有	5-6	43/260 (17%)	該当 (16.6%)	C
有	5-7	40/202 (20%)	該当 (12.6%)	A
有	5-8	17/67 (25%)	該当 (75.4%)	A
無	1-1	12/66 (18%)	該当 (2.8%)	B
無	1-3	5/28 (18%)	非該当 ()	B
無	1-4	6/83 (7%)	非該当 ()	D
無	1-5	5/84 (6%)	非該当 ()	D
無	2-1	18/82 (22%)	該当 (71.4%)	A
無	2-4	36/199 (18%)	該当 (2.7%)	B
無	2-7	9/85 (11%)	非該当 ()	D
無	3-1	16/98 (16%)	該当 (12.1%)	C
無	5-2	22/164 (13%)	非該当 ()	D
	区全体	720/4126 (17%)	(11.8%)	

※区全体と比較して、割合の「高い」地区を赤字で表示

地区別対策方法の分類の流れ

参考資料1

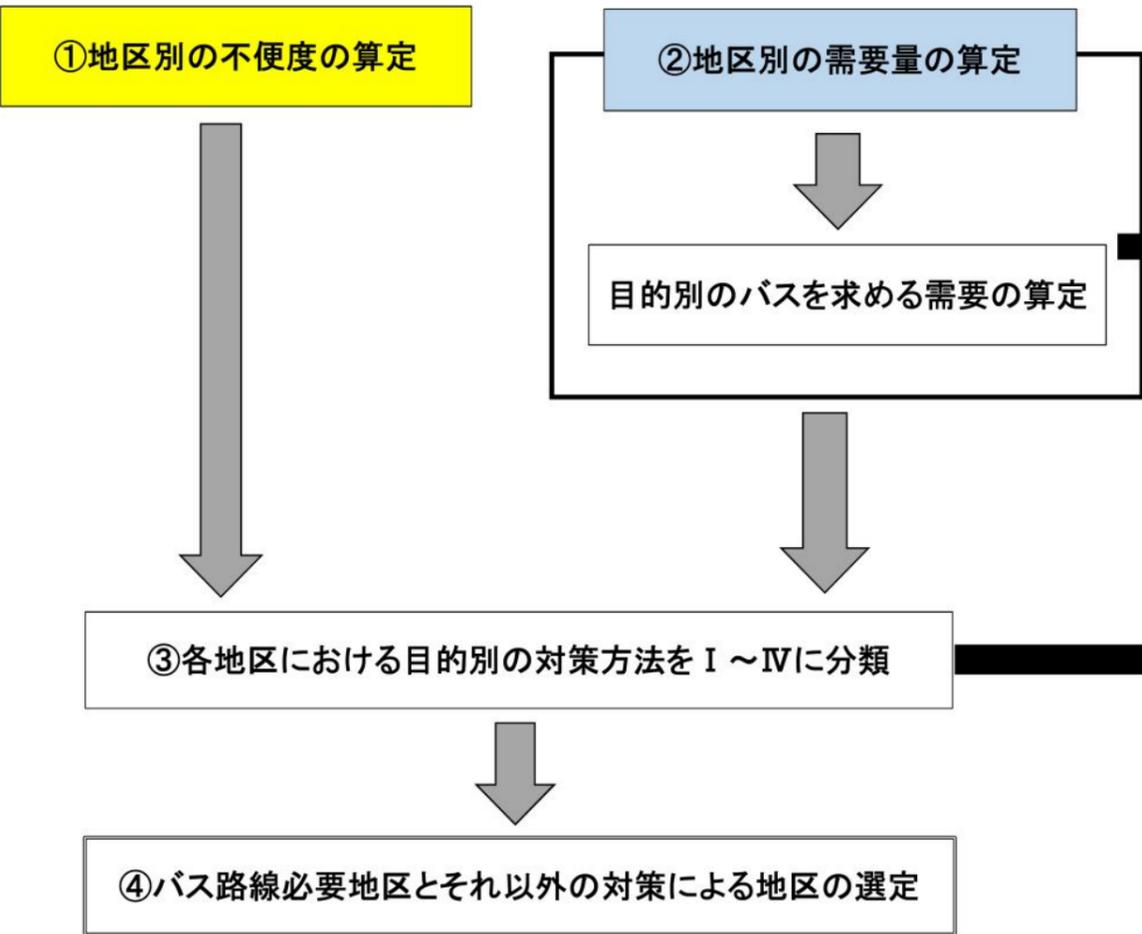
1 対策地区の選定の考え方

- (1) 対策地区は、地区別の不便度と需要量に基づき選定する。
- (2) 30地区ごとに目的別の対策方法を分類(I～IV)する。

		地区別の不便度	
		低い	高い
地区別の需要量	大	Ⅲ	Ⅰ
	小	Ⅳ	Ⅱ

- [分類Ⅰ]
バス路線の検討
- [分類Ⅱ]
多様な交通手段の検討
- [分類Ⅲ、Ⅳ]
現行サービスの維持方策を検討

2 対策地区の選定フロー



■バスを求める需要の算定の考え方

(1) アンケート結果より、下記条件に該当する比率を用いて需要量を算定する。

- 1) 現在、バス以外の交通手段を利用しており、不便を感じている人で、不便を解消する手段として、バスを求める率(誘発需要)
- 2) 現在、バス以外の交通手段を利用しており、不便を感じていないが、バスによる移動に転換できる率(転換需要)

(2) 需要量は、地区別の人口密度に上記条件に該当する比率を乗じて、外出頻度を考慮して算定する。

需要量計算式

$$= \text{バス需要率}(\%) \times \text{人口密度}(\text{人}/\text{km}^2) \times \text{外出頻度【週平均】}(\text{日})$$

■分類(I～IV)の考え方

(1) 各地区のバス需要は、区全体と比較し、需要量「大」、「小」を設定する。

(2) 不便度の高低は、前頁までに示した地区別分類で、AまたはBを「高」、CまたはDを「低」と設定する。

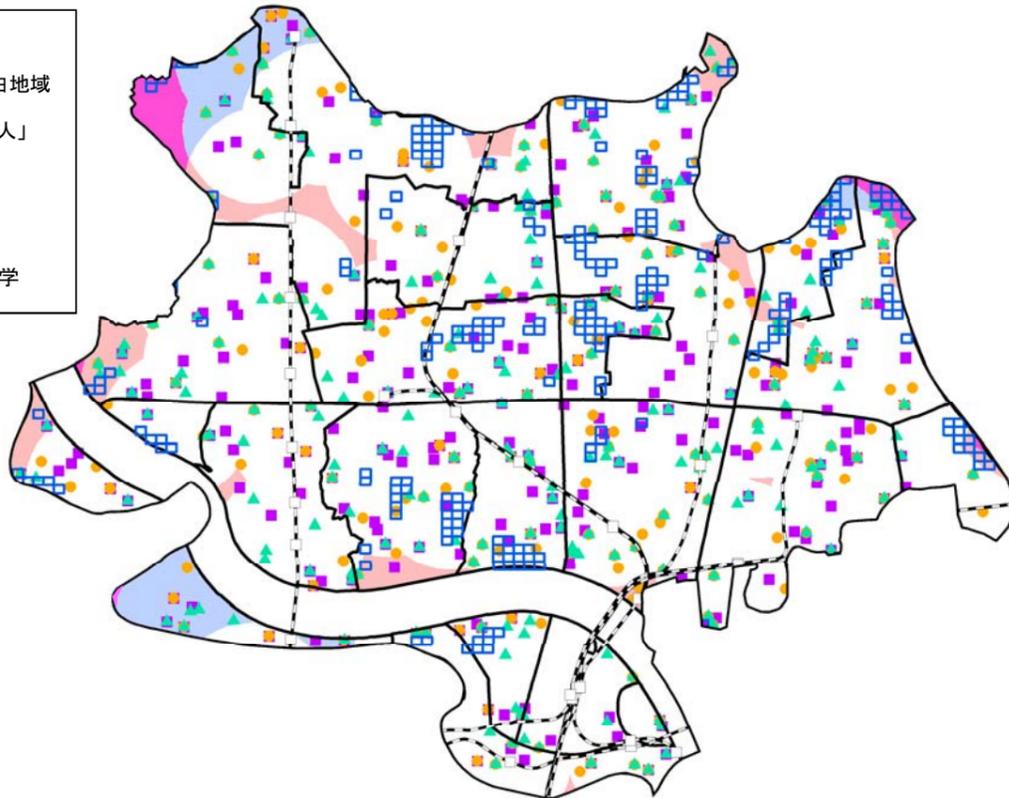
地区別対策方法の分類(全目的)

参考資料1

全目的

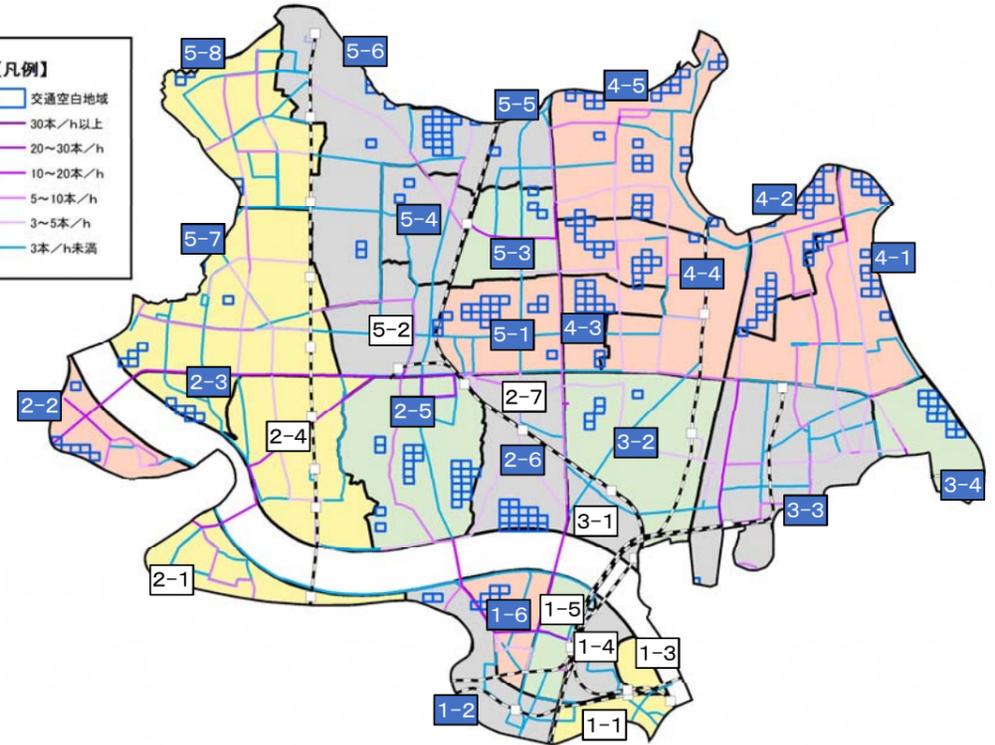
対策の優先順位の設定

- 【凡例】
- 交通空白地域
 - 「不便を感じる人」
 - ▲ 買い物
 - 通院
 - 通勤・通学



不便度の分類			
		①不便感	
		低	高
②目的地までの距離が遠い地区	大	C	A
	小	D	B

- 【凡例】
- 交通空白地域
 - 30本/h以上
 - 20~30本/h
 - 10~20本/h
 - 5~10本/h
 - 3~5本/h
 - 3本/h未満



対策方法の分類			
		地区別不便度	
		低	高
需要量地区別	大	Ⅲ	Ⅰ
	小	Ⅳ	Ⅱ

30地区別の対策方法の分類(Ⅰ～Ⅳ)

Ⅰの方が優先度が高い

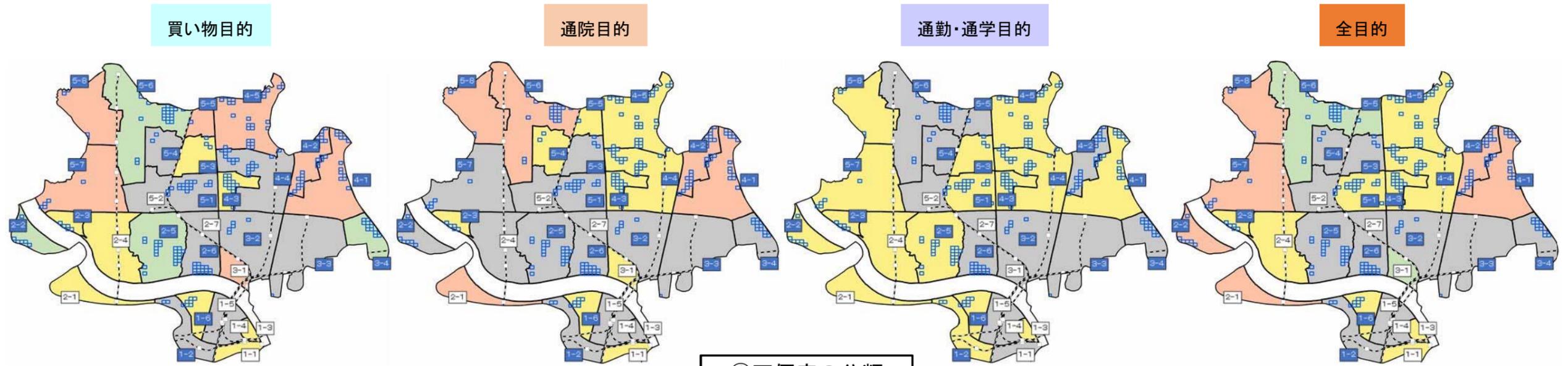
空白地域	地区名	分類	需要量	バス優先度	
有	1.2%	1-2	D	1081	Ⅳ
有	2.3%	1-6	B	1946	Ⅰ
有	2.3%	2-2	A	1527	Ⅰ
有	1.9%	2-3	B	0	Ⅱ
有	8.9%	2-5	D	2209	Ⅲ
有	6.2%	2-6	D	346	Ⅳ
有	1.9%	3-2	D	1534	Ⅲ
有	0.4%	3-3	D	1184	Ⅳ
有	4.7%	3-4	D	1342	Ⅲ
有	6.6%	4-1	A	1958	Ⅰ
有	10.9%	4-2	A	1506	Ⅰ
有	6.2%	4-3	B	1531	Ⅰ
有	7.4%	4-4	B	1701	Ⅰ
有	13.6%	4-5	B	1884	Ⅰ
有	7.4%	5-1	B	1490	Ⅰ
有	1.2%	5-3	D	1530	Ⅲ
有	0.8%	5-4	D	38	Ⅳ
有	0.4%	5-5	C	1209	Ⅳ
有	10.1%	5-6	C	1008	Ⅳ
有	2.7%	5-7	A	1096	Ⅱ
有	3.1%	5-8	A	689	Ⅱ
無		1-1	B	0	Ⅱ
無		1-3	B	0	Ⅱ
無		1-4	D	1301	Ⅳ
無		1-5	D	2011	Ⅲ
無		2-1	A	231	Ⅱ
無		2-4	B	1022	Ⅱ
無		2-7	D	0	Ⅳ
無		3-1	C	832	Ⅳ
無		5-2	D	0	Ⅳ
		区全体		1320	

※区全体と比較して、需要量の「高い」地区を赤字で表示

地区別不便度と対策方法の分類について(目的別)

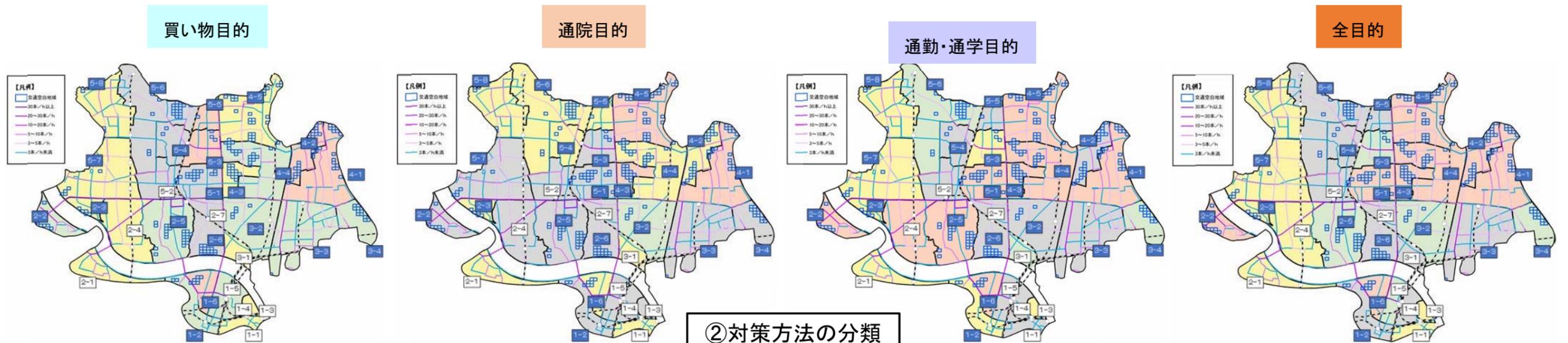
参考資料1

①30地区別の不便度の分類



		①不便度	
		低	高
②目的別	大	C	A
	小	D	B

②30地区別の対策方法の分類



		地区別不便度	
		低	高
地区別 需要量	大	Ⅲ	I
	小	Ⅳ	Ⅱ

地域ニーズに即した交通手段検討の流れ

参考資料1

○バス交通(路線バス・はるかぜ)では対応が困難な地域に対して

1. 地域ニーズに合った交通手段検討の流れ

→推進していくための区からの支援方策を含む「スキーム」について今後検討

(※以下、スキームのイメージ)

